

「いのち」の教育実践事例

☆山形市の実践

(山形一小、東沢小、蔵王二小)

連携

協働

— 「いのち」「こころ」「からだ」について学ぶ活動を通して —

山形市内の各学校では、「いのちの大切さ」を学ぶ活動や「互いを尊重する」取組みが組織的・計画的に行われています。その中で子どもたちの成長に効果的だった取組みを紹介します。

○山形一小の実践

- 毎年12月と2月に、「こころとからだの学習週間」を設け、担任と養護教諭とが連携しながら、保健内容及び「自他を大切にすること」「生き方を考えること」について学習している。
- 親子研修として、PTAの奨学会と協賛で、「いのちの学習塾」を開催している。全校児童と保護者が集まり、いろいろな方面で活躍している方に来てもらい、「いのちの大切さ」について話を聞いている。

○東沢小の実践

- あたたかな学校にしたいというJRC委員会の願いから「あたたか ゆうびんしゅうかん」という取組みを始めた。
- 友達との関わりの中で、うれしかった時の気持ちや、ありがとうの気持ちを葉書に書いて切手を貼ってポストに入れると、1回目は学級の友達に、2回目は全校のみんなへ葉書が届くことになっている。
- この取組みを通して、あたたかい思いの交流から校内に笑顔が増え、友達とふれあう楽しさを再認識している。

○蔵王二小の実践

- 1・2年生では、男女の違い、汚れやすい場所と洗い方等を具体的に学習している。また、セカンドステップ（ソーシャルスキルトレーニング）を行い、自分の気持ちを表現し、相手の気持ちに共感して理解を深め、思いやりのある関係づくりに生かしている。
- 3年生では、地域の養蚕業の方の協力のもと、1人10匹ずつカイコを飼育している。幼虫から繭ができるまでのいのちの成長過程を観察している。6年生では、できた繭を使い、卒業式で使う自分のコサージュ作りに取り組んでいる。



手の不自由な状態で生まれたものの母として子育てまでこなす伊藤さん

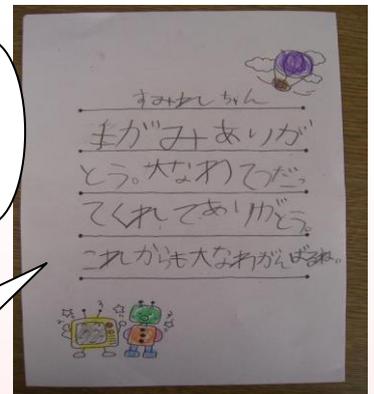
山形一小



あの時は、やさしくしてもらってうれしかったよ。

東沢小

ありがとうの気持ちがいっぱいです。



大切なところは、丁寧に洗うんだね。

蔵王二小



いっぱいいるなあ。どの子にしようか迷うなあ。大きく育ててね。